

新発田市 平成 29 年度 第 8 回定例記者会見

1 日 時 平成 29 年 11 月 7 日（火）午前 11 時～

2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室

3 内 容

- 台湾でのトップセールス
- 知事とのタウンミーティング
- ふるさと納税を活用した「ガバメントクラウドファンディング」
- 堀部安兵衛武庸墓碑建碑式
- 札の辻広場のイベント「キッズワークアドベンチャー」
- 札の辻広場のイベント「シバジャロック・フェスティバル in 札の辻広場」
- 札の辻広場のイベント「しばた軽トラ市」
- 札の辻広場のイベント「ドミノだよ！ 全員集合 ～地域が繋がるしばたの輪～」
- 「潟コン×Komachi 婚活サークル in しばた」
- 新発田よさこい合同発表会
- 「マイタウン・コンサート 2017」
- 市所蔵美術作品展「渡辺義平の仕事とそのコレクション展」
- 歴史入門講座「新発田合戦をめぐる近年の研究」
- 新発田市体育協会創立 70 周年記念事業・スポーツで「人づくり・夢づくり」事業
- 人権講座「映画『あん』上映会」
- 「生きやすいまち絆をめざして ～2017 しばた人権フェスティバル～」

あいさつ

- 本日は、秋晴れの良い天気になりました。この天気が、もう少し早く実りの秋の時期にほしかったなと思っています。
- おいしい米のできる山手の方に影響が出たようで、2,000 万円くらい売り上げが落ちたという話も聞きましたので、日照不足が相当影響したのだと思います。
- 先月は、衆議院議員選挙やトップセールスと、慌ただしい月でしたが、それもやっと落ち着いて、平穏な日常の中でしっかりと市政運営を行いたいと思っています。

- 平穩と言え、トランプ大統領が来日しましたが、安倍首相がうまく対応しているのか、結果として FTA（自由貿易協定）を含めて、あまり無理な条件提示がなかったようです。
- 安倍首相には、しっかりと国政を頑張っていただきたいと思うと同時に、選挙中にも申し上げましたが、保育園・幼稚園の無償化には期待しています。消費税 2%分を子育ての政策に回したいというものですが、これは大歓迎です。
- 子育ての政策については、地方の方がむしろ先行している感がありますが、後押しをしていただける、一緒に子育ての政策を進められるということで期待しています。
- 「アベノミクス」も道半ばでしょうし、地方創生も道半ばです。これからも国の動向を見極めながら、新発田により磨きをかけて、全国へ発信していきたいと思います。

それでは、会見項目の説明とします。

最初に、台湾でのトップセールスについて報告します。

- 10月24日から27日までの4日間、インバウンド観光客の誘客に加え、新発田産コシヒカリの販売促進と輸出機会の拡大を目的として、台湾でのトップセールスを行いました。
- 当初は、中国ハルビンも訪問する予定でしたが、台風21号の影響により、ハルビンへの渡航をやむを得ず取りやめました。
- 昨年度は、ハードオフコーポレーションの山本善政社長に、台湾フランチャイズ協会理事長をご紹介いただき、15トンの新発田産コシヒカ리를輸出に結びつけることができました。
- 今回は、初めて台南を訪問し、李社長をはじめとする台南の経済関係者に新発田産コシヒカ리를 PR しました。
- 台南では、日本産米を使用している外食産業の事業者は少ないようですが、今後、大きな需要が期待できると感じたところです。

- 台北では、大倉喜八郎との繋がりを頼って、「ホテルオークラ台北」にお邪魔しました。
- 同ホテルでは、和食部門の総料理長をはじめ、関係者と新発田産コシヒカリに使用について商談を行い、好感触を得たところです。
- その後、新発田産コシヒカリ「殿様献上米」を大手高級スーパーへ供給している商社「さんせき三石国際」を訪問しました。
- 相手方からは、高級米としてのブランドイメージを構築するため、熊本県の水とセットで販売するなど、炊飯にもこだわりたいとの話があったことから、それならば、ぜひ新発田の水「げんせんこんこん源泉滾々」とのパッケージ販売をお願いしたいと提案しました。
- 12月2日から、「たいべいいちまるいち台北101」などに店舗を展開する「ジェイソンJASONマーケット」6店舗で、「殿様献上米」の大々的なPR販売を行う予定です。私も12月上旬に再度、台湾に訪問して大いにPRしたいと考えています。
- 各報道機関の皆様には、ぜひ一緒に渡航していただき、全国的にも稀有な行政による米輸出の成果について取り上げていただきたいと思います。
- また、昨日、「新発田の美味しいお米コンテスト」の最終審査で、今年の金賞米・銀賞米・銅賞米が決定しました。このコンテストの上位入賞者が生産した米を、来年度の「殿様献上米」として輸出することとしています。
- 一方、インバウンド誘客では、本年度、月岡温泉に4,000人の送客をいただいた旅行エージェントなどへ、韓国で好評を得た「阿賀北ゴルフ三昧プラン」や、新発田市・胎内市の連携による「阿賀北スキープラン」などを紹介しました。
- また、テレビショッピングで旅行プランを販売するエージェントを訪問しました。同社は、新潟～台湾間の航空便を運航する遠東航空のキーエージェントで、来春から月岡温泉をこの旅行プランに載せていただくことが決定しました。
- これにより、さらに多くの旅行者が、新発田へ来ていただけるものと期待しています。

- 当市では、海外に対するアプローチとして、「物のアウトバウンド、人のインバウンド」をテーマに取り組んでいます。
- 特産品を輸出することで新発田のファンを増やし、次はその方たちに新発田へ来てもらうという一連のサイクルの確立を目指しています。
- 今後も、輸出促進とインバウンド誘客を両輪として、トップセールスを含めた取組を進めたいと考えています。

次に、県知事とのタウンミーティングについて

- 11月12日（日）に、米山県知事が県内各地を訪れ県民と意見交換する「タウンミーティング」が、ヨリネスしばたの議場で開催されます。新発田市での開催は平成24年以来5年ぶりです。
- パネルディスカッションのテーマは「魅力あふれる観光地づくり ～行ってみたい地域を目指して～」です。
- 当日は、市観光協会の高澤専務理事、月岡温泉観光協会の小竹会長、米の輸出に力を入れている加藤農場代表取締役の加藤康弘さん、通訳として当市のインバウンド誘客に協力していただいている、敬和学園大学の留学生・王影^{おうえい}さんの4人をパネラーに迎え、米山知事との意見交換を行う予定です。
- 現在、県が策定中の新たな総合計画の素案では、日本版DMOの形成促進や外国人旅行者の受け入れ体制の整備が掲げられていると聞いています。
- 米山知事には、当市を含めた阿賀北地域が進めているインバウンドなどの観光振興の取組をご理解いただくとともに、県との協力体制を深めるきっかけとして、双方にとって有意義なタウンミーティングになればと思っています。

次に、ふるさと納税を活用した新事業について

- 「パラアスリートを夢の舞台へ！次に夢を実現したい障がい者を応援！」と題して、ふるさと納税を活用した「ガバメントクラウドファンディング」を11月1日に開始しました。

- これは、特定の事業に充てることを目的に、インターネットを通じて寄付金を募るもので、県内の自治体では初の試みです。
- 今回は、障がい者スポーツの環境を整備するプロジェクトとして、目標金額を450万円に設定しました。平成30年の1月末まで、ふるさと納税の総合サイト「ふるさとチョイス」で募集しています。
- 本市には、市職員で平昌^{ピョンチャン}冬季パラリンピックを目指す、ノルディックスキークの出来島^{できしま}桃子^{ももこ}選手や、東京パラリンピックを目指す、卓球の美遠^{みお}さゆり選手など、有望なパラアスリートが大勢います。
- この取組が、より多くのパラアスリートの夢を叶えるための一助になることを期待しています。

次に、堀部安兵衛の墓碑^{ぼひ}の建立について

- 11月26日（水）に、堀部安兵衛の墓碑^{けんびしき}を建立する「建碑式」が、安兵衛の実家・中山家の菩提寺である長徳寺で執り行われます。
- これは、安兵衛の顕彰団体である「武庸会^{たけつねかい}」が、安兵衛の魂を新発田に帰そうと、長年温めてきた計画が実現したものです。
- 建碑式^{けんびしき}に先立ち、9月には赤穂市^{あこう}の花岳寺^{かがくじ}から遺髪堂^{いはつどう}付近の土を貰い受け、11月22日には、東京の泉岳寺^{せんがくじ}から骨を分けてもらう予定であると聞いています。
- 当日は、新潟大学名誉教授の富澤信明さんによる、吉良邸討ち入りに関する新発見についての講演も予定されています。
- この墓碑の建立によって、堀部安兵衛ゆかりの地としての魅力がさらに高まり、市の観光振興に寄与するものと期待しています。

次に、札の辻広場でのイベントを2つ紹介します。

- 1つ目は、11月19日（日）に開催される「キッズワークアドベンチャー」です。

- これは、新発田青年会議所の主催で、新発田市、阿賀野市、聖籠町の小学生を対象に、様々な職業を体験してもらおうというものです。
- 当日は、左官や瓦葺^{かわらぶき}などの職人から、ネイリストやパティシエなどの人気の職業まで、26の幅広い職種が集まります。
- 記念品がもらえる抽選もあり、参加する子どもたちには、楽しみながら仕事について学び、将来について考えるきっかけにしていきたいと思います。
- 2つ目は、11月25日（土）に開催される「シバジャロック・フェスティバル in 札の辻広場」です。
- これは、学生が中心のライブイベントで、バンド演奏から弾き語りまでバラエティに富んだ10組が出演します。
- 当日は、ケータリングカーによる飲食の販売や、お気に入りのグループに投票できるアンケートもあります。
- 大勢の方にお越しいただき、新発田の若者を盛り上げていただきたいと思います。
- いずれのイベントも民間主導で行われるもので、イベント会場としての札の辻広場の利用が、行政以外にも浸透してきたものと喜ばしく感じています。

このほかの情報としては、札の辻広場のイベントとして「しばた軽トラ市」と「ドミノだよ！ 全員集合 ～地域が繋がるしばたの輪～」があります。

また、婚活支援事業の第6弾「婚活サークル in しばた」の参加者募集があるほか、毎年恒例の「新発田よさこい合同発表会」があります。

文化系のイベントでは、県文化振興財団との共催で「マイタウン・コンサート 2017」を開催するほか、画家の渡辺義平^{よしへい}氏にスポットを当てた「市所蔵美術作品展」、新発田重家に注目した歴史入門講座「新発田合戦をめぐる近年の研究」があります。

スポーツ関係では、新発田市体育協会創立70周年記念事業として講演会を開催するほか、陸上競技の指導者を対象とした講習会「スポーツで『人づくり・夢づくり』事業」があります。

さらに、人権について考える機会として、映画『あん』の上映会と、「2017 しばた人権フェスティバル」を開催します。

ぜひ、1つでも多く記事に取り上げていただき、新発田を盛り上げていただきたいと思います。

定例記者会見質疑応答概要

台湾でのトップセールスについて

北陸工業 行政が米の輸出に力を入れることは稀有だとの話があった。「物のアウトバウンド、人のインバウンド」のためだとは思いますが、そもそも、なぜこの取組に力を入れているのか。

市長 人口減少社会において、人口が1人減ると124万円の消費が減ると言われている。人口をすぐに増やすのは簡単ではない。腰を据えた施策で、じっくりやらなければならないが、124万円の消費が減るということは、まちの活力が失われるということであり、これをどこかで補てんしなければ、負のスパイラルに陥る。観光が即効性という意味で一番大きい。外国から10人新発田へ旅行に来ると、その124万円分が補える。国内旅行ならば26人、日帰りならば83人である。そうした即効性から、観光を産業のエンジンにせざるを得ないということが1点目。もう1つは、新発田の基幹産業は農業であるということである。農業をもっと売り込んでいこう、農家の皆さんに希望を持っていただこうと考えた時に、コシヒカリに関して我々にどのような協力ができるかということである。民間企業がやっているように、米のビジネスに手を出そうというよりは、まちづくりの延長線上として、新発田を発信していくということであり、その発信の素材に新発田産のコシヒカリを挙げた。外国の皆さんに食べていただいて、「こんなうまいものができる地域はどんなところだろう、行ってみよう」と、ある意味で新発田産コシヒカリが、観光大使・親善大使の役割を果たして、それがインバウンドにつながり、アウトバウンドにつながるということである。来年はニューヨークに新発田の米が並ぶことが決定している。このコシヒカリのほかに、外食産業向けとして、台湾、香港、シンガポール、ハワイに13トン輸出している。来年度は、より多くの量を輸出できると見込んでいる。

北陸工業 台湾や中国では、日本の会社の社長が行っても、部長クラスが対応し、会長がいかないとトップが出てこないという話も聞く

ので、市長が行くということは効果があると思う。好感触を得たという話があったが、この米の評価が高い点はどこか。

市長 食べてみておいしいということは絶対的な条件であるが、新発田の「チャンピオン米」だということである。ブランド米の産地でも、地域や生産者によって味が違う。生産者が愛情込めて作った米と、単なる化学肥料をまいて作った米では全然違う。新発田においても、生産者によって味は違う。「おいしいお米コンテスト」をやって、その上位入賞者に限定している、品質にこだわっているということである。「新発田のチャンピオン米である、品質は保証する」と言うとびっくりされる。そして、現実に食べていただくと、やはりおいしいということである。ホテルオークラ台北でも食べていただいて、採用していただけるのではないかと思う。ただ、価格の面で調整している。下げようと思えば下げられるが、私は下げたくない。自ら新発田産コシヒカリの価値を下げるような気がする。12月上旬に再訪した際に、ホテルオークラとは最後の詰めをしたい。

北陸工業 台湾に輸出されている一般的なコシヒカリと、相場はどの程度違うのか。

市長 台湾では、魚沼産が 1,200 円/kg 程度。一般的なコシヒカリで 1,000 円/kg で、新発田産はもう少し高くなるが、「チャンピオン米」で品質が違うので、食べてみてほしいということである。今回 PR する「JASON マーケット」は高級スーパーマーケットで、6 店舗展開している。シンガポール資本なので、今度はシンガポールのスーパーにも卸してもらえるのではないか。

産経 行政のトップが地元の米をトップセールスすることは稀有なことというが、市長が知っている範囲で、首長が海外へトップセールスしている例があるか。

市長 聞いてはいないが、皆さんやっているのではないか。トップセールスは明らかに効果がある。相手方もトップが出てくる。今回のテレビショッピングの件も即決だった。テレビ放映していない段階で、来年の 3~4 月には、毎週 1 団体送るということ

である。ただし、物品の輸出でトップセールスをやっている例はないのではないかと。前述のとおり、米を輸出するということではなく、新発田を輸出すると考えている。一つの新発田の発信源にしたいと考えている。

産 経 来年度はニューヨークにも米を輸出するとのことだが、ニューヨークへのトップセールスは、現段階で考えているか。

市 長 提携している「Wakka Japan (ワッカ・ジャパン)」という精米会社が、来年ニューヨークに店舗を出す。アメリカでは、卸売りと小売りの免許を同時には出さない。「Wakka Japan」として、初めて米を売る小売店舗を出店するそうである。その店舗に目玉商品として、「殿様献上米」を並べるとのことである。

新潟日報 米を輸出する主体はどこになるのか。

市 長 DMO である。新発田の生産者の米を DMO が仲介して、「Wakka Japan」に卸す。

新潟日報 そこから「Wakka Japan」が台湾やニューヨークに売ることか。

市 長 台湾では、代理店である「三石国際」を通じて販売している。精米は「Wakka Japan」が行う。それ以外の国は、代理店が決まっていないので、「Wakka Japan」を通じて販売している。

新潟日報 「Wakka Japan」が、独自にスーパーなどと契約することか。

市 長 そうである。

新潟日報 大きな需要が期待できるとの話があったが、そう思った理由は何か。

市 長 新発田の特産品は何かと考えた時に、品質に加え、安定的に供給できる新発田産コシヒカリに行き着いた。アスパラも県内では一番の産地ではあるが、安定的に供給できて、受け入れられるかという点と難しい。コシヒカリは、どこにでもあるものかも

しれないが、かえって伸びしろがあるのではないかと考えている。海外へ輸出されている日本の米の量はわずかである。ようやく国が、来年度から輸出用米に 10 アール当たり 20,000 円の補助金を出し、4 つの企業に免許を与えることとしている。その中の 1 つに「Wakka Japan」も入っている。国も本腰を入れており、この 4 企業には 10 倍のノルマを課した。我々が一生懸命やってきたことが、後押しされたようで、運が良い思っている。

新潟日報 年間どのくらいの量になるか。

市長 今年は、コシヒカリが 15 トンとそれ以外の米が 13 トンで、合わせて 28 トン。来年はもっと多くなる。

新潟日報 28 トンは、台湾、香港、ハワイ、シンガポールか。

市長 そうである。新潟産コシヒカリが 1,000 円～1,200 円/kg となると、ほんの限られた人しか食べられない。ビジネスの市場規模としては小さい。ビジネスチャンスとしては、外食産業の部分が大きい。先ほどの 13 トンはその部分に当たる。その部分は大手商社が担えばよいが、取引を安定させるまでの当面の間は行政が間に入るということである。完全に軌道に乗れば、生産者と業者、民と民とでやってもらい、行政としては手を引きたい。それまでの間は、触媒としての役割を果たすべきと考えている。

新潟日報 そういう意味でもトップセールスの効果を感じているということか。

市長 そうである。

産 経 遠東航空について、11 月 3 日に定期便化された。1 年間の需要が良かったとのことであった。県としては、現在の週 2 便を週 4 便にすることを目指している。台湾の観光客を新発田に迎えるうえでは弾みがつくと思うが、県の新潟空港を拠点とした取組については、どのように考えるか。

市長 大歓迎である。ぜひ、そうなってほしいと思う。ただ、新発田の場合、空港に近いということはメリットでもあり、デメリットでもある。新発田に3～4日間滞在していただくことは難しい。来るにしろ、帰るにしろ、玄関口としての役割は果たせるが、湯沢方面へ行くという方がほとんどである。月岡に泊まって、東京などゴールデンルートに乗る場合は、バスの運転手が2人必要であるが、湯沢からは1人でよい。少し無理して湯沢に行けば、翌日は午前中で東京へ行き、半日観光ができる。月岡からであれば、ほぼ1日高速道路を走っているようなものである。エージェントとすれば、湯沢の方にメリットがある。そこで考えたのが「ゴルフ三昧」である。まず韓国の富裕層をターゲットに紹介した。5月末に行ったところ、感触が良く、10月は30組が参加している。1組3～4人で、3～4日は滞在する。これまで、県はあまり力を入れてくれなかったが、空港に近いデメリットをメリットに変える商品として、初めて中国語版、英語版での紹介に協力していただいた。経済面でインバウンドの即効性は強いので、この波に乗り遅れてはいけないと思っている。

新潟日報 ここ数年、インバウンド客は全国的には増えていると思うが、月岡温泉ではどうか。

市長 本格的にトップセールスを始めた平成27年は約1,000人であった。昨年が約3,000人、今年は7,000人を超える見込みである。来年は、目標として10,000人を達成したい。

新潟日報 月岡温泉としてということか。

市長 そうなるだろう。まだFIT（個人の海外旅行）は多くはない。

産経 県は、これまであまり力を入れなかったというのはどういう意味か。

市長 北陸新幹線の方に向いていた、あるいは佐渡には力が入っていたと思う。阿賀北、下越はどうかというと疑問である。そこで、阿賀北地域でDMOを立ち上げたということである。

新潟日報 インバウンド客は、どの国が多いのか。

市長 1番多いのは台湾で、今年は4,000人を超える。そのほかは韓国と中国で、ほぼその3か国に集約される。直行便があるということが大きい。今後、韓国の便数が増えるのは、良いことである。

ガバメントクラウドファンディングについて

新潟日報 「障がい者スポーツ活動を継続して行える環境整備」とは、具体的にはどういうことか。

市長 「ふるさとチョイス」を活用して、ふるさと納税を募集しているが、同サイトでガバメントクラウドファンディングをやっているようなので、ぜひやりたいということである。当市は、寄付金の額は県内でも上位で、さらに全国に新発田を発信したいと思っているが、国からの通達により今年の10月から、返礼品の割合を3割にしたこともあり、なかなか新発田の方を向いてもらえなくなった。そこで、新発田の政策的な部分をPRしたいということから、パラリンピックに向けてスポーツ推進課で力を入れている取組の紹介と併せて、寄付を募ろうというものである。一般の寄付と企業からの寄付を合わせて、障がい者の方の支援しようというもので、遠征費や用具の購入費補助などに充てるものである。まずは、年明けに平昌オリンピックがあり、出来島選手の出場が有力であることから、彼女を応援できるように考えている。

市長としての任期最終年について

新潟日報 来年の11月30日で任期満了となり、もうすぐ1年を切るが、来期に向けてはどのように考えているか。

市長 昨日、後援会の総会があり、皆さんからご意見があったが、私自身は今のところ全く考えていない。来年度の予算編成に当た

っては、2期目最後の締めくくりの予算であるので、まずそこに全力投球したい。後援会の皆さんと相談して、春頃には、どうすべきか検討したい。現在は、2期目の最後の年をしっかりとやろうと思っている。

新潟日報 市長はこれまで「新発田党」ということで、基本軸を置いてきたように思う。今回の衆院選では新発田市の選対本部長を務めることで、スタンスを明確にされたと思うが、その点について後援会から何か意見はあったか。

市長 意見はなかった。基本的には今でも「新発田党」である。今回は、斎藤議員にまちづくりに関してお世話になった場面があったため、その恩を返したということである。あくまでも「新発田党」のスタンスは変えない。後援会の皆さんも、分かってくれていたようで、そのことに関する声は一切なかった。